

2015ワールドカップ～イングランド（後編）

5. オリンピックスタジアム(9月24日・ニュージーランドVSナミビア)

オイスターカードで地下鉄乗って、エムバークメントへ。水上バスでテムズ川をクルーズ。ロンドンアイ、テイトモダン、シャード、HMSベルファースト、ロンドン塔、タワーブリッジとメジャーな観光地を眺めて、グリニッジへ。



古き良き時代の貿易船、カティーサークを見学して、グリニッジ天文台へ。経度ゼロのグリニッジ子午線を確認して、周辺を散策。



大観覧車のロンドンアイまで戻って、ビッグベンの写真を撮りまくる。ウエストミンスター大聖堂訪問も、撮影禁止にブーイング。ライオンファルガー？いや、トラファルガーのライオンさんと画面に納まり、おのぼりさん活動完了です。

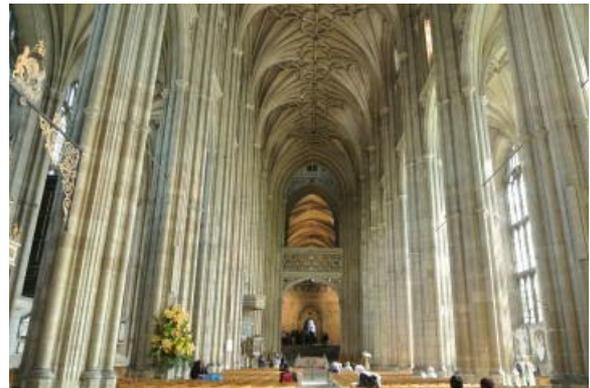


ストラットフォードに移動して、オリンピックパークでオールブラックス応援です。今回の先発メンバーからは、マコウ、カーターの二枚看板が外れて、キアラン・リードまでお休みで3列のサム・ケーンがゲームキャプテンを務めます。格下ナミビア相手に、PGも狙わずスクラム選択。ナミビアの見せ場は、後半、センターの選手のトライだけ。オールブラックスの強さを見せつけられました。(58対14)





翌日は、ビクトリアからカンタベリーへ。道路渋滞でバスが遅れて大変でしたが、中世の面影が残るイギリス国教会の聖地を訪問。カンタベリー大聖堂に圧倒され、続いてセントアウグスティヌス修道院跡をゆっくりと歩く。四国観光達人として、巡礼者が多く訪れる場所は外せませんので、城壁の街を旅に組み込みました。



夜は、ロンドン。ピカデリー付近の劇場で「ストンプ」というパフォーマンス観賞です。セリフなしで、ほうきやバケツをパーカッションにして、叩いてリズムを奏でる100分間。これは、単純ですがビックリのテクニックで、ボケと突っ込みも明らかで、表情だけでも笑えます。まあ、人の好みそれぞれですが、これは、最高のオススメ舞台・・もし、ロンドンに足を運ぶ機会があれば、ぜひご覧いただきたい一押し逸品です。



6. トウイッケナム(9月26日・イングランドVSウエールズ)

Swing low Sweet Chariot

Coming for to carry me home

これは、イングランドラグビー応援の歌。「イギリス人は合唱が好き」なんて誰かが言っていましたが、7万人収容のトウイッケナムに響き渡る歌声は、信仰か革命？プレーが継続している間、繰り返し歌い続けます。ウエールズ側もブレッドヘブンを合唱しますが、スウイングローと相乗効果で、心地よい空間を創造します。



ラグビーをナマで観戦し始めて30年以上になりますが、カテゴリーを超えて最高峰の戦いはワールドカップ。決勝・準決勝は別格として、最も憧れていた対戦が、ラグビーの母国・イングランドと、ゴツゴツ当たる純朴なイングランドの永遠のライバル・ウエールズの一戦です。しかも、ラグビーの聖地トウイッケナムで観戦できるなんて、ほとんど夢のまた夢で、ジャパン応援と合わせて今回の旅のメインイベントです。



スタジアム周辺散策。オフィシャルショップで、ひつじのショーンのぬいぐるみとTシャツ買って、スポンサーのコカ・コーラのブースでゲームに参加。画面に向かって笑顔を見せて、笑顔がステキだったらコーラと賞品プレゼント~だったようで、スマイルと言われて面白い顔したら、赤と白の非売品のマフラーをゲット。後続の皆さん見ていたら、一番良いものを頂いたみたいで、これからはコカ・コーラ飲もうって決意しました。

入場門で、人だかりができていたので、とりあえず行列。選手入場とかで、バス待ちしているらしく、おとなしくカメラ構えて待っていたら、イングランドの選手を乗せたバスが目の前に。しかも、ドアオープンって、一番ええ場所？選手の顔を間近で見、カメラのシャッターも切れました。(ただし、誰を撮影したかはよくわかりません。)



続いて、ウェールズ。正直、ウォーバートン・キャプテンは見分けつきませんでした。ジョージ・ノース発見。ガットランド監督とあの(1999年大会で大活躍のスーパーブーツ)ニール・ジェンキンスも目の前を歩いて行きます。





ビールを買って、いざいざ。合唱しまっせ～！試合は、緊迫のPG合戦。スタンドで座っている私たちにまで緊張感が伝わってくる独特のムード。スィングロー・スウィートチャリオットの合唱に参加して、気分も高揚、トライは、イングランド・ウイングのメイだけで、16対9で前半戦を終える。



後半戦も、もっと緊迫。始終リードを続けるホームのイングランド。場内の歌声に押されてこのまま逃げきるかと思った終了間際、永遠のライバルとして、アウェイの意地、ウエールズのフォワード・ラッシュでトライ。ゴールを決めて同点。これでペースをつかんだウエールズ、PGを決めて25対28でリード。スィングロー・スウィートチャリオット・・・場内の大声援に押されてイングランドの猛攻。耐えきれずゴール前でウエールズが反則。PGで同点？それともトライを狙う？クリス・ロブショウの選択はトライ・・・結末は？



という息も詰まる、期待通りの熱戦。結果、25対28でイングランド敗戦、ベスト8入りに暗雲。ウエールズサポーターは、狂喜乱舞。ホント、ええもん見せて貰いました。



7. ウェンブリー(9月27日・アイルランドVSルーマニア)

前日の観光は、ロンドン漫遊。キングスクロス駅のハリーポッターの「9と3/4番線」でカートと共に空を飛んで、ロンドン塔に移動。



タワーブリッジに登って、テムズ川右岸をお散歩。市役所、HMSベルファースト、シャード、テイトモダンの前を通ってミレニアムブリッジを渡って、セントポール大聖堂のらせん階段を登ってドームのてっぺんからロンドン一景。ベーシックプランからのトウイッケナムでした。



熱戦から一夜明けて、コベントガーデンに。オフィシャルショップで、昨日の感激の延長から、ウェールズのジャージ購入。ひつじのショーンの着せ替え(?)展示会を見て、交通博物館で、ロンドンの地下鉄の歴史をお勉強。





最後の観戦は、ウエンブリー。

試合開始前に、国際交流。アイルランドのジャージを着て会場入りした私たちは、ルーマニアサポーターと記念撮影。



アイルランド国歌斉唱。自慢ですが、国際交流の一環として、旅行前に日本以外の国歌を覚えて歌う努力をしました。今回観戦した6試合とも、どちらかの国歌を斉唱してきました。北から、イングランド、スコットランド、アイルランド、ウェールズ。南は、ニュージーランド、南アフリカ、オーストラリアです。君が代、京都産業大学学歌、門真市歌と合わせて、合唱可能です。

結果は、ルーマニア善戦するも、44対10でアイルランドの勝利で終了です。



最後の夜は、ホルボーンのホテルの近所でイタリアンレストランへ。今回、朝食以外まともなレストランに入っていないので、ブランチャッタ、サーモンの香草焼き、パスタを食べて、イングランドに乾杯です。



翌日は、自然史博物館を見学。ダイナソーや火山・地震のメカニズムなどの展示を見てから、ヒースロー空港へ。旅行期間中お世話になったオイスターカードのリファンド(残金精算)もトラブルなく終了し、飛行機に乗り込んで大団円。



8. ジャパン

ワールドカップラグビー2015・・・どこの国が優勝するのでしょうか？ニュージーランドの連続優勝？それとも、調子を上げているオーストラリア？

開催国のイングランドは、ベスト8に残れませんが、大会も素晴らしいし、サポートする皆さんも最高、共に合唱して応援したくなる素晴らしいお国です。

Swing low Sweet Chariot Coming for to carry me home

Swing low Sweet Chariot Coming for to carry me home



2019年には、この大会が日本にやってきます。イングランドに負けない素晴らしい大会が開催されることを願っています。

どこかの政治家じゃありませんが、「大きなことは、できませんが、小さなことからコツコツと」・・・一人一人が、おもてなしの心でサポートして大会成功に一役買おうじゃありませんか。“One for all, all for one”・・・そんな、イングランド・ワールドカップ観戦の旅でした。

(旅は、2015年9月18日～9月29日)

2015年10月5日記

Top

Back
戻る

[トップ](#)
[↑](#)



[2016我が家のラグビーウィーク](#)